

SESSION HOUSE
Special Program

日韓 ここから始めるカラダの対話

トーキョー × ソウル デュオダンス・フェスティバル

Tokyo Soul Duo Dance Fes 2013

SESSION HOUSE DREAM FACTORY
SMALL THEATER NETWORK



イ・クァンソク & ホン・ミンジン



チャ・ミョンヒ & チョン・ヨンヒ



渡辺久美子 & 山崎麻衣子



笠井晴子 & 白髭真二



笠井瑞丈 & 上村なおか



ソウル・ドリームファクトリーの公演情報

- 10月 9日(水)～10月13日(日) 坂東扇菊・坂東扇輔
- 10月16日(水)～10月20日(日) 笠井晴子・白髭真二
- 10月23日(水)～10月27日(日) 渡辺久美子・山崎麻衣子
- 10月30日(水)～11月 3日(日) 笠井瑞丈・上村なおか

※いずれも韓国2組とのジョイント公演です。

ドリームファクトリー

韓国のダンスと伝統舞踊の小劇場の活性化を掲げて設立された社団法人韓国チユム芸術センターは、ソウルの大学路(テハンノ)に所在しており、2007年には成均小劇場、2011年にはドリームファクトリー、2012年にはダンススタジオを開館。これらを通じて積極的に公演、フェスティバル、ワークショップ、レジデンス事業などの様々なプロジェクトを展開している。特にトーキョー × ソウル デュオダンス・フェスティバルが実施されるドリームファクトリーは、2011年からデュオフェスティバル、伝統舞踊流派展、伝統劇芸術フェスティバルなどが開かれている。

企画：李哲珍、伊藤孝、崔柄珠
照明：岡田淳 / 音響：上田道崇 / 舞台監督：外園彩織
記録映像：瀧島弘義 / 記録写真：伊藤孝
宣伝美術：石関美穂

助成：公益財団法人 日韓文化交流基金

主催：トーキョー × ソウル デュオダンス・フェスティバル推進委員会
制作：セッションハウス企画室

チケット(税込)

- 前売 3,000 円
- 当日 3,500 円
- 学生 2,500 円

ご予約は下記の電話・メール・サイトからお願いします。



お問い合わせ
セッションハウス企画室
mail@session-house.net
http://www.session-house.net
03-3266-0461

2013. 11. 9 Sat
19:00

11.10 SUN
14:00
18:00

SESSION HOUSE
BI Studio

笠井瑞丈 & 上村なおか

笠井晴子 & 白髭真二

渡辺久美子 & 山崎麻衣子

イ・クァンソク & ホン・ミンジン

チャ・ミョンヒ & チョン・ヨンヒ

他者と向き合う原点・デュオダンス

ダンスが熱い日本と韓国。両国のコンテンポラリーダンスと伝統舞踊のダンサーが集い、他者と向き合う原点 デュオダンスで、舞台を共有します。東京のセッションハウスとソウルのドリームファクトリー、2つのスモールシアターがネットワークを結び実施していく新企画。観客と親密な関係を切り結ぶ小劇場の特性を生かして、毎年秋に東京とソウル双方で開催します。



『息する殻』<振付：イ・クワンソク>

私を苦しめるものは世相より自分の中により多く存在するものではないだろうか。私とは本当に自分そのものなのだろうか。さもないとまた異なる何かが自分を成しているだろうか。うなされる恐怖とは、私の精神の中にある集団無意識の表れである。そしてこの無意識を回避せず、これを意識の中に登場させて対面することによって恐怖と苦痛から救われることができる。



イ・クワンソク (Lee Kwangseok)

ダンスカンパニー・メディアウス代表。前「ダンスシアター・オン」主席ダンサー。前「香港市立現代舞踊団」団員。1999年 横浜コンクール最優秀賞、長野舞踊コンクール1等賞、1994年 香港国際舞踊コンクール大賞。『天使の曲芸』『闇の中のさかな』『死、幸せな女』『息する殻』など多数の振付作品がある。

ホン・ミンジン (Hong Minjin)

オーストリアウィーンでバレエを専攻後、2007年韓国芸術総合学校に入学すると共に創作活動を始める。ダンサーとして活動しながらダンス、映画、ミュージカルで振付を担当。2012年、プロジェクトグループMMM 結成と共にマルチメディアと動きを中心とする実験的な作品活動を展開している。

貞禍貞蓮(チョンウチョンヨン)舞踊団

晋州教坊クッコリ舞

晋州教坊クッコリ舞は春、夏、秋、冬の四季節を入れた八マル(韓国伝統音楽で一つの単位を成す楽節)で構成されている。特に手首の自由奔放な動きが絶品である。この踊りは、現在慶南(キョンナム)の無形文化財第21号に指定・保存されている。それを二人舞に再構成した作品である。

口音劍舞

劍舞は、教坊の芸妓らによって広く踊られた芸術性の優れた代表的な韓国伝統舞踊の一つである。サンオリ、アンズンサウィ(座り所作)、パンソクドリ(座布団回り)、筵風擡(回転しながら移動する所作)などの独特な所作がある。本来は8名の舞員が整列して踊るのが伝統的だが、故金寿岳さんの口音に合わせ二人舞として再構成された作品である。



チャ・ミョンヒ (Cha Myunghee)

成均館大学 儒学学科 礼楽学専攻、哲学博士。重要無形文化財第21号『勝戦舞』履修者。慶南無形文化財第21号『晋州教坊クッコリ舞』履修者。貞禍貞蓮舞踊団代表。ソウル教坊所属

チョン・ヨンヒ (Jung Yunhee)

漢陽大学舞踊学科及び同大学院修了。重要無形文化財第21号『勝戦舞』履修者。貞禍貞蓮(チョンウチョンヨン)舞踊団芸術監督。高陽・幸州ヌリ舞踊団長。ソウル教坊所属

日韓のダンス交流は盛んになってきているが、まだまだその場は限られている。そこで最先端の若手が集う日韓双方の劇場が協力し、実現したのがこのフェスティバルだ。デュオに限るのは、「個人の身体性」と「他者との関係性」を描く上での最小単位だからである。さらに特筆すべきはコンテンポラリー・ダンスに加えて、両国の伝統舞踊も参加することだ。最先端と伝統をとともに知ることができる、画期的なフェスティバルなのである。

アドバイザー：乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)



『無音の彼方』(仮題) <笠井瑞丈 & 上村なおか>

笠井瑞丈 × 上村なおかのプロジェクトは、一貫して、人と人・人と世界とのダンスによる交流・交感を目的としている。そのダンスは、常に生の身体そのものを真摯に探求していく方法で行われる。今回は、人間の持つ聴覚と音との関わりについての冒険。音を聴くこと、その果てに響いているのは一体何なのか。2つの身体を通した音への問いかけである。

笠井瑞丈 (Kasai Mitsutake)

1975年東京生まれ。笠井靄に舞踏を、山崎広太にダンスを師事。自作のソロをはじめ、デュオ作品やグループ作品の振付、他の振付家の作品への出演も積極的に行っている。2009年度文化庁新進芸術家海外研修員として、ニューヨークで研修。2010年横浜ソロ × デュオ・コンペティション・プラスで特別賞受賞。その後、笠井靄とのデュオ作品「対」(2010年、セッションハウス)とその続編ともいえる「虚舟(うつろぶね)」(2011年、横浜赤レンガホール)では、新たな境地を開いた。2013年、上村なおかとのデュオ作品「海とくじら」では、高橋悠治のピアノの生演奏とともに好評を博した。



上村なおか (Uemura Naoka)

金沢市生まれ。5歳よりバレエのレッスンを始める。お茶の水女子大学舞踊教育学科卒業。2002年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員。木佐貫邦子に師事し、多数の作品に出演。また、笠井靄にダンスとオイリュトミーを師事し作品にも出演。1995年より自作のソロダンスを開始。さまざまなジャンルのアーティストとのコラボレーションも多数を行っている。第36回舞踊批評家協会新人賞受賞。現在、桜美林大学などで講師を勤める。



『マンホールレイン』<笠井晴子 & 白髭真二>

マンホールに降る雨は、二人の距離をちょっといびつに捻じ曲げて。けれど、そんなことは気にも留めずに大きな海原へと流れゆくのです。間合いひとつで鋭くも、温かくも、変化をする人間関係。「雨降って地固まる」二人の瞬間を切り取ります。

笠井晴子 (Kasai Haruko) 東京都出身。筑波大学体育専門学群卒業後、即興ダンスを香瑠鼓に学ぶ。舞台、TV・CM出演、バックアップダンサー、体操のお姉さんなど様々な顔を持ち、質感豊かな表現での時空間創造を追求する。近藤良平、森下真樹、ノマド〜s、キリコラージュ、撫肩 GUYDANCE 等の作品に参加。自身の作品創作も定期的に行い、白髭真二とデュエット(2011)、柿崎麻莉子と全国ツアー(2012)等を展開する。また、写真、ピアノ、衣装、美術のアーティストとのコラボレーションなどでも活動。現在、Eテレ「モリゾー キッコロ 森へいこうよ!」ダンスコーナーの振付・出演をレギュラー担当中。



白髭真二 (Shirahige Shinji) 米国アリゾナ大学中退後、本格的にダンストレーニングを開始。数々のモダンダンス公演に出演する一方、バレエ、ミュージカル、企業プレゼンテーション、社交ダンス等活動の場を広げている。主な出演作品、新国立劇場主催公演「如風」、「創流祭」(振付：森山開次)、宮本亜門作・演出「横浜開港150周年ヴィジョン! ヨコハマ」、「KING OF THE BLUE」(演出・振付：上島雪夫)、瀬奈じゅんコンサート「ALive 2」、銀河英雄伝説第一章銀河帝国編など。2009年ユニクロ g.u. 店頭広告モデル



『共犯』<山崎麻衣子写真左 & 渡辺久美子写真右>

一方的な方向性を示し主張し合う2人。それがあつた時一致してしまう滑稽さ、面白さ、怖さ。人の衝動は、どんな理由で何処に潜んでいるか分からない。そして、それを突き動かすのは、見知らぬ誰かの素知らぬ行為なのかもしれない…。

デュオ・グループ PaGi= 渡辺久美子 (Watanabe Kumiko) & 山崎麻衣子 (Yamazaki Maiko)

2人は日本女子体育大学で出逢い創作活動を始め、2008年デュオ PaGi (パギ) の活動を始動する。クラシック音楽を好み、動きと楽曲の調和にこだわる。これまでに PaGi として「ボブとワルツ」、「野ぢしゃ」、「共犯」、「痛いこと」などを発表。「いつかは0に戻るから」で横浜ダンスコレクション R2010 ファイナリストに選出される。「2013年1月 DESIGN FESTA GALLERY 原宿にて単独公演「鍵のない宙」を発表。